

合理的なシステム施工

乾式二重床工法は、床パネルを支持脚で支持する工法であるため、根太組みが必要な在来軸組工法とは違い、簡単なボルトの調整のみで床下地の施工ができます。また、湿式工法と比較して、接着剤の硬化を待つ必要がなく工期短縮につながります。加えて、床下空間を確保できる構造なので、自由な配管や空気層による遮音断熱効果を高めることが可能です。

※ 施工を実施する際は必ず「KIRII バリアレスフローア―標準施工要領書」をご確認ください。

バリアレスフローア―を安全に施工いただくために



注意

- ベースパネル施工後に重量物（仕上材・制振材等）を落としたり、投げ入れたり、1ヶ所に集中した仮置き等をしないで下さい。ベースパネルや支持脚等の破損原因となります。目安：150kg/㎡以下
 - ベースパネルを濡らすと反りの原因となり、施工精度低下の原因となりますのでご注意ください。
 - 重量物を置くことが想定されるスペース（目安：200kg/㎡以上）には、敷板や支持脚を追加して重量を分散するよう補強してください。
 - 支持脚や捨張合板を固定する接合材（クギ・ビス等）がベースパネル等を買通する長さの場合は、その下の配管等を傷つけないように注意して施工してください。
 - SD-6・K-6・M-4・L-4 支持脚固定用ビスは、支持脚固定の際にパネル受けブロックを買通しますので、その下部に配管等が来ないように支持脚を配置してください。
 - ベースパネルはパーティクルボード（JIS A 5908 18M または P タイプ F☆☆☆☆以上）厚さ 20 mm 以上を使用してください。
 - バリアレスフローア―を施工できる床版は以下①～③とし、これ以外の床版上に施工をする際は、施工の可否を含め、仕様と方法を設計者と協議の上決定してください。
 - ① 剛性を確保されたコンクリートスラブ（共同住宅等）
 - ② 剛性を確保された木質系床組み（戸建住宅等）
 - ③ ①または②と同等の剛性と判断できる床組み
- ※ タイルや CF 上に施工すると、床鳴りの原因となります。

1 外周部の施工

※ 壁際の施工方法の違いで床衝撃音遮断性能が変わります。

K 根太の取り付け



- 隙間調整ピース等を使用し、壁から縁を切って設置し、レベル決定後接着剤を所定の箇所に注入します。

その他工法

支持脚受け工法の場合



- ベースパネルに支持脚調整用の穴を空け、支持脚を取り付けます。

在来根太工法の場合



- 根太材は釘と接着剤で固定。補強用束は 450 mm ピッチ以内とし、接着剤で固定してください。

2 吸音材の敷き込み



- 仕様により吸音材（KIRII グラスウール II）を敷き込みます。

3 基準ベースパネルの敷き込み



- 1 枚目のベースパネルを際根太または、K 根太上に壁から 5 mm ～ 15 mm 程度の間隙を空け、敷き込んでください。

4 基準レベル出し



- 水平器を使い短手方向のレベルをプラスドライバーで調整します。

5 床伏せと支持脚の取り付け (1)



- パネル中間部に 458 mm ピッチ以内（ただし仕様により 611 mm ピッチ以内となります）で支持脚を取り付け、定尺またはパーティクルボードの端材にてレベル調整します。

6 床伏せと支持脚の取り付け (2)



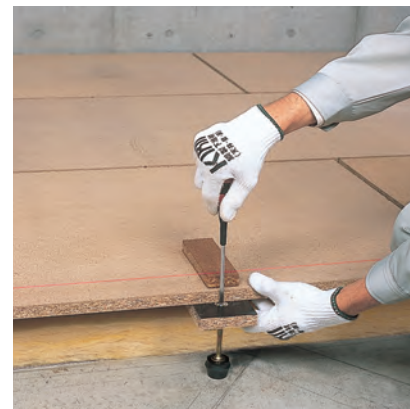
- パネルの敷き込みはレンガ張りとし、目透かし部分はスペーサーを使用します（12 mm 程度）。レベル調整は④、⑤に従って行ってください。

7 支持脚とベースパネルの固定



- ベースパネル敷き込み完了時に釘またはビスで、支持脚とベースパネルを固定します。
- 固定する支持脚上の床パネル上にしっかりと体重をかけながら固定してください。

8 レベルの確認及び点検



- 水糸、レベルレーザー等を使用しレベルの確認を行ってください（目安＝3 列ごと）。
- ベースパネル敷き込み及び支持脚固定完了後に床全体を歩行し、支持脚の浮きの有無を確認し、浮きがある場合は再調整してください。

9 接着剤の注入



- 支持脚ボルト頭部に接着剤を注入します。必要に応じて目透かし部分にガムテープを貼り、養生を行ってください。また、ガムテープは現場支給願います。

10 制振材の敷き込み



- 仕様により制振材を敷き込みます。
- ベースパネルの目透かしに重ならないように隙間なく敷き込んでください。